

その名大口

誇りと愛着のある学校

H28年12月1日

「第55回曾木の滝公園『もみじ祭り』」

大口高校は、郷土への誇りと愛着を育もうと「地域貢献活動」に取り組んでいます。今年度も「もみじ祭り」を盛り上げようと取り組んできました。「高校生と大学生の地域活性化プロジェクト」を立ち上げ、今年度は日本大学環境安全工学科の永村景子研究室と連携しました。伊佐市観光特産協会の方々や大学生と数回企画会議（研究室のメンバーの今年の伊佐訪問はなんと5回）を重ねてきました。雨天でイベント班（スタンプラリーの企画）・ステージ班は活躍できませんでしたが、アート班（350個の紙灯笼）・フード班（伊佐にこだわった“おにぎらず”と豚汁）、コンシェルジュ班（曾木の滝MAP作成）と、大口高校生企画の「おもてなし」で祭りを盛り上げました。



左上は、小北農場の方に米作りや伊佐米の特徴について学んでいるフード班。コンシェルジュ班も「伊佐の風」の方に話を伺いました。右上は、MBCでの「もみじ祭り」宣伝隊の様子。



伊佐の特産品をたくさん使っています！
 ＊おにぎらず
 1 伊佐黄金米(ひのひかり) 【小北農場】
 2 豚味噌 【やる気母ちゃん】
 3 鹿児島黒豚(伊佐産) 【増元精肉店】
 4 卵 【いちき農場】
 5 砂糖 【喜界島産】
 ↑伊佐市の姉妹都市
 6 しょうが 【伊佐産】
 7 牛乳 【伊佐牧場】

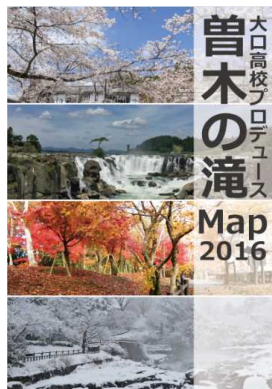
＊豚汁
 1 豚肉 【焼耐かす豚】
 2 大根 【前田さん】
 3 里芋 【坂元さん】
 4 人参 【羽祢田さん】
 《野菜は全部無農薬です》



紙灯笼の絵は伊佐市内の園児に描いてもらいました。自分の描いた灯笼を見つけ、喜ぶ親子の姿がありました。

「大口高校のみなさんへ」 永村景子助教 (日本大学生産工学部環境安全工学科)

大口高校生のみなさん、こんにちは。今回は、私と永村研究室の学生が取り組んでいる研究についてご紹介します。紹介、といっても、皆さんとともに取り組んだもみじ祭りのプロデュースそのものが、私たちの研究です。「大学の研究」というと、実験室で白衣をまとって薬品を扱ったり、計測機器や分析機器を用いて数値解析を行ったり、機械や装置を開発して特許を取ったり、というイメージがあるかもしれませんが、しかし私たちのように、地域に出かけて、地域の人たちとともに地域づくりを



践しながら、自ら研究対象である地域に「介入」する研究も、近年は増えてきます。この研究スタイルを、アクションリサーチと呼んでいます。

アクションリサーチでは、研究のプロセスが特に重要で、結果のみでなく「成果」や「効果」を丁寧



に検証することとなります。もみじ祭りのプロデュースでは、伊佐の地域づくりに欠かせない「連携」と「協働」のプロセスを検証します。大口高校生のみなさんが伊佐伊佐観光特産協会や大学と「連携」することで、雨の中頑張った大口高校フード班と日本大学永村研究室のみなさん。さまざまに協力アドバイスしていただいた前田忠亮さん。どんな弱みが克服できたのか、どんな強みが発揮できたのか。

みなさんが大学生や地域の人たちと「協働」することで、どんな新しい価値が生まれたのか。これらの観点を、客観的に分析・評価します。

今年度のもみじ祭りのプロデュースは、ステージ班、イベント班、アート班、フード班、コーディネート&コンシェルジュ班(C&C班)の5班に分かれて取り組みました。それぞれの企画を実施できなかった、が「結果」ですが、その結果に至るまでの企画会議や班長会議、みなさんが考え、議論し、企画を実現に向けて組み立てたプロセスが「成果」です。さらに活動に携わった皆さんの意識やモノの見方、興味の対象などが少しでも変わっていれば、それが「効果」となります。ステージ班がもみじ祭り全体を通じて会場を盛り上げようと考えたステージ構成や台本、他の班の活動をより多くの人たちに知ってもらおうと組んだプログラムづくり。イベント班が小さな子どもたちが楽しみながら、これからの学びの役に立つよう工夫したスタンプラリー。アート班が幼稚園・保育園の園児たちの個性豊かな絵を活かして会場に彩りを添えた”とうろう”。フード班の”おにぎらず”と”豚汁”は、伊佐には豊かな食材があることを”美味しく”教えてくれました。C&C班はいろいろと取り組みましたが、たとえば今回作成した曾木の滝マップを手にとった人が、新しい曾木の滝公園の楽しみ方を見出すかもしれません。このように、いずれの企画も曾木の滝ともみじ祭りに新しい価値をもたらしました。

もみじ祭り本祭りは残念ながら雨天中止となってしまいましたが、今回の一連の取り組みでみなさんが積み上げた企画は、いずれも魅力的で、予想以上の出来に仕上がりました。しかしそれ以上に、みなさんの顔つきや姿勢が、特にこの1ヵ月でグッと頼もしくなったことが、地域活性化プロジェクトの「成果」です。これからみなさんは、自らの進路をあれこれ考える時期に突入します。大いに悩んで欲しい、というのが私からのアドバイスですが、今回の取り組みが、その悩みの幅を広げたり、深めたりする糧になると良いかと願っていますし、そのことがこのプロジェクトの「効果」ともいえます。

最後に、昨年度、今年度と、「曾木の滝公園もみじ祭り」での地域活性化プロジェクトでは、先生方をはじめ、大口高校生のみなさん、OB・OGのみなさまに大変お世話になりました。この場を借りて、心よりお礼を申し上げます。



~~~~~  
今年の教育講演会(11/10)は、「『地域づくり』は楽しい」という演題で井上貴至氏(長島町副町長)にお

願いました。井上さんは、東大から総務省に入り、自ら発案した地方創生人材支援制度で、最年少の副町長に就任され、“地域のミツバチ”と自称し地域興しのさまざまなプロジェクトを立ち上げています。「大事なことは、続けること、夢を話し仲間を作ること」、「グローバルとローカルの視点を」、「地方創生には人材が求められている」、「課題の最先端はチャンスの最先端」、「“地域超密着”がキーワード」等、井上さんの経験をもとに講演していただきました。生徒の質問にも丁寧に応答していただき、講演終了後も「もみじ祭り」の班長にアドバイスをしてもらいました。ありがとうございました。  
~~~~~

